

ホトケドジョウ

Lefua echigonia Jordan & Richardson
コイ目・ドジョウ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅰ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧ⅠB類

選定理由

県内の生息地は比較的広範囲に生息するが分断され散在する。また、本種の生息環境は人里に近く、比較的小さな環境が多い。小規模の開発工事で生息環境ごと消失する。生息地・生息数とも減少傾向にある。

種の特徴

全長 8 cm。体形は円筒形で体色は暗褐色。湧水が流れ込む湿地や細流・水路等の泥底～砂泥底部の浅い場所に生息する。穏やかな流水域を好み、落葉や水草の下等に多い。食性は雑食性で底生動物・付着藻類等を食べる。産卵期は春～秋と長い。

分 布

青森県を除く東北～近畿地方に分布し、低山～平野部の小河川や水路に生息する。本県ではあわら市・坂井市や越前町・敦賀市・若狭町等で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

生息環境は人里近くの比較的小さな環境が多く、圃場整備や湧水池の埋め立て等によって生息環境が破壊・消失してしまうことが最も大きな要因。アメリカザリガニ（外来種）による捕食の影響も大きいと考えられる。

参考文献 環境省編（2015）、福井県編（2002）、中坊編（2013）、川那部ら（2005）、斎藤・川崎（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○			○	○	○				○		○				

アカザ

Liobagrus reini Hilgendorf
ナマズ目・アカザ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

かつては本県内の河川にごく普通に生息したが、生息条件が明らかに悪化して個体数が激減しており、個体群がかなり小さくなっている。

種の特徴

全長 10cm。アカザ属は日本では本種のみが分布する。河川の水のきれいな上・中流域の瀬のれき下に潜み、夜間または濁水時に出て水生昆虫類を食べる。産卵期は5～6月で、瀬の石の下に 100～200 個の卵を塊状に産着する。

分 布

宮城県・秋田県以南の本州、四国及び九州に分布する。本県内では主要河川の上・中流域で生息が確認されている。

生息を脅かす要因

河川の開発や護岸工事、水質汚濁等が本種の生息を脅かす主な要因である。

参考文献 中村（1984）、福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、福井県（2002）、細谷（2013）、中坊編（2013）、宮地ら（1976）、森・名越（2002）、川那部ら（2005）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○	○		○	○	○		○	○	○	○	○			○	○	○

ワカサギ

Hypomesus nipponensis McAllister
サケ目・キュウリウオ科

【福井県カテゴリー】新：県域絶滅危惧Ⅱ類 旧：県域絶滅危惧Ⅱ類

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では主として三方五湖や北潟湖で確認されているだけで、分布域がかなり限定されていることや個体数も大幅に減少していることから選定した。

種の特徴

全長 15cm。沿岸、河川、湖沼に生息する回遊魚。容易に陸封される。餌は動物プランクトンを主とする雑食性。産卵期は2～3月、主に川の水深 20～40 cmの砂れき底に産卵するが、湖岸でも行われる。ふ化した仔魚はすぐに海または湖に流れ下り、そこで成長する。

分 布

千葉県以北の太平洋側、島根県以北の日本海側、北海道に生息するが、放流により国内全土に広がっている。本県では、北潟湖と三方湖、真名川ダム（移植）に少数生息する。

生息を脅かす要因

河川や湖の護岸工事、水質汚濁等で本種の生息環境が悪化し、生息数が極度に減少したものと思われる。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会編（1998）、中村（1984）、宮地ら（1976）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○												○			○	